

平成29年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	武雄市立橋小学校		
2 所在地	武雄市橋町大字片白8718番地1		
3 校長名	稲富 博茂		
4 学級数 児童生徒数	8学級 126人	5 実施学年 児童生徒数	4年 20人

6 取組のねらい

本学級の児童は、国語科の単元「だれもが関わり合えるように(手と心で読む)」において、目に障害を持つ人との関わりについて学習した。そこで、児童が出した「自分たちにできる関わり方には、どんなものがあるだろう。」の課題をもとに、総合的な学習の時間に「福祉」に視点をあて、体験学習をもとに単元を設定することにした。

本校の児童は、お年寄りとの同居、または地域に住むお年寄りが多いという環境のもとで暮らしている。4年生も85%の児童がお年寄りと同居している。しかし、障害のある人との交流経験はほとんどなく、障害者への理解も本やテレビからの断片的・表面的な理解にとどまっている。本学習を進めていくことは、共によりよく生きていくことの大切さについて考えるきっかけになるだけでなく、自分自身のあり方や生き方についても問い直す事になると考え、本単元を設定した。

7 取組の実際

(1) 高齢者疑似体験

段差や階段、狭い通路の歩行、ドアの開閉、食器の扱い、文字を読むことを体験した。全身が重くなり、自由が失われることを感覚的にとらえられた。自力歩行や字を書くこと、箸を使うことの難しさ、介助の必要性を実感として受け止めた児童が多かった。



< 高齢者疑似体験の様子 >

(2) 車いす体験

体育館に自力走行や介助体験のできるコースを設定した。少しの段差や階段が思わぬ「障害」になることや介助には相手を思いやる「やさしさ」が必要であることを実感することができた。

(3) 調べ学習

以下の4つの課題を設定し、グループごとに調べ学習を行った。

- A 目の不自由な人との関わり
- B 耳の不自由な人との関わり
- C 外国の人との関わり
- D 妊婦さんとの関わり

4つのグループに分かれて、それぞれ調べ学習をした。どんな困ることがあるのか、町の中や生活用品の中には、どんな工夫がなされているのかを調べて回った。ALTの先生にインタビューしたり、妊娠されている方に話を聞いたり、福祉施設へ電話をせずねたりと分担しながら情報を収集していた。



<タブレットPCを使った調べ活動>



<発表に向けての話し合い活動>

(4) 調べたことの発表会

グループごとに自分たちの調べたことをパワーポイントでまとめ、発表会をした。

他のグループが調べたことについて質問をしたり、質問されたことをまた調べてきたりと少しずつ深め合うことができた。



<電子黒板を使っでの発表会の様子>

< パワーポイントで作成した発表資料の一部 >

目の不自由な人
~点字ブロック~



横断歩道前

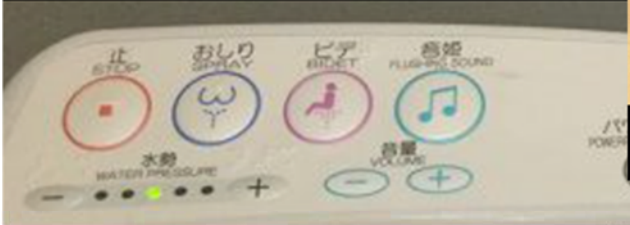


スーパーマーケット

身の回りで見つけた
ユニバーサルデザイン



洗濯機



これは、トイレで見つけました
ボタン式で、便利です。
英語でも書いてあります。

ボウリング場♥



↑
これは、宇宙科学館の、地図です。
ほとんどが、この(韓国語、英語、日本語)を
使っています。



(5) 自分たちでできることを考える活動

「自分たちが学習したことを3つの方法で発信し広めよう」と考え、3つのグループに分かれて取り組んだ。

A ものづくり

日ごろ、みんなが使うもので、こんな工夫をすると「もっと使いやすくなる」、
「たくさんの人が使えるようになる」といった、ユニバーサルデザインの考え方による“人にやさしいものづくり”をイラストにして描く。

B ポスター

ユニバーサルデザインの考え方による“人にやさしい街づくり”をポスターで表現する。

C 壁新聞

お年寄りや障害のある方、妊娠中の方、子育て中の方などに配慮した建物や設備、製品、サービスなどに関して、学習したり調べたりしたことを壁新聞にまとめる。

8 取組の成果と課題

相手の立場を理解しようと、第1学期に様々な体験学習やいろいろな立場の方との直接交流を計画し実践してきた。その結果、児童同士の関わりの中で、困っている人にはさっと手助けをする姿が増えてきた。また、同居している高齢者の方への優しい声かけが増えたという保護者からの声も聞かれた。自分にできることは何か、どうすることが相手の立場に立つことになるのかを考えていこうという意欲が高まった。

高齢者や妊婦さん、ALTの先生との直接交流はできたが、障害のある方との直接の交流ができていないので、高学年になっても、交流する場を設けて、ぜひ続けて取り組みたい。